

海南神社 三浦市三崎4丁目 12-11

相模国三浦総鎮守。藤原資盈（ふじわらのすけみつ）、資盈の後である盈渡姫（みつわたりひめ）、釜龍弁財天（せんりゅうべんざいてん=三浦七福神）、及び地主大神を祀る。

清和天皇の治世、皇位継承争いに絡んで左遷された藤原資盈が貞観6年（864年）、任地の筑紫国へ赴く途中で暴風によって三浦半島に漂着し、当地の長に推戴された。その後、資盈は海賊を平定したうえで福祉に努めたことから地元民に崇敬され、貞観8年（866年）に資盈が没すると、地元民は祠を建てて祀り天元5年（982年）には現在の地に社殿が建立され三浦郡の総社となった。治承4（1180）年、源頼朝の挙兵に呼応した和田義盛は衣笠城で畠山・江戸の諸軍と戦ったものの落城、海路房州に逃れた。折悪しく大暴風雨に遭遇し流されて兵糧が尽きた時、魚を捕り、主従飢えをしのぐことが出来たことで祠を造り祀った。

また、同神社には源頼朝がお植えになられた御神木や、龍神様の形をした御神木等がある。



道路から直ぐに石柱



山門



手水者



鮮やかな神楽が飾られていた

